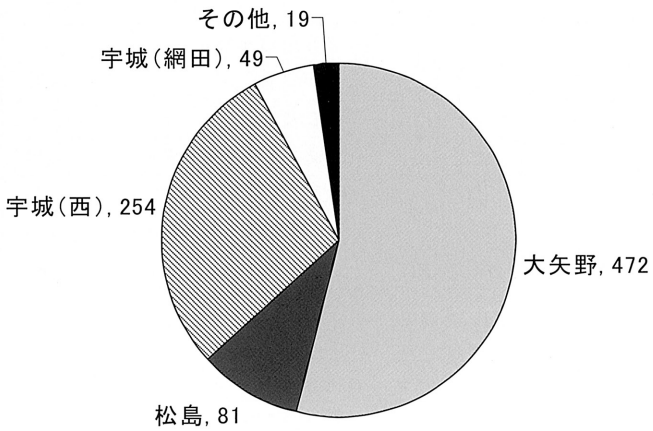
◆診 療 部

診療部長　大島茂樹

前年度３名の常勤医師が退職し、１名が非常勤となり、医師の人員不足が懸念されていたが、2007年度は、４月に回復期リハビリテーション病棟専従光野医師、整形外科西口医師、内科・循環器科楠元医師を迎え、さらに７月には外科吉村医師を、10月には麻酔科荒川医師と内科須古医師を迎えることが出来、従来の診療を縮小することがないばかりか新たな医療を展開することが出来た。前年度同様済生会熊本病院および熊本大学医学部附属病院からも、入院診療・外来診療・日当直等の多大な支援をしていただき地域の皆様に安心して診療を受けていただける病院を維持していくことが出来た。

外来延べ患者数は、37,665人で、１日平均128.1人（前年度122.1人）と増加した。初診患者総数も5,803人（前年5,672人）と増加した。一方、救急患者数は5,740人（前年度5,823人）、救急車搬入数が875人（前年度926人）と減少がみられた。救急車の地区別受け入れ状況は図のように、大矢野地区が半数、宇城西が３分の１とその比率に大きな変化はない。減少の理由は特定できていない。

救急車の受け入れ状況



また新入院患者数は1,712人（前年度1,710人）と横ばいであった。

手術数は整形外科医・麻酔科医が常勤医として加わったことで、前年度に比し４割増えた。手術以外でも腹膜透析（CAPD）の導入および維持を開始し、また、胃瘻造設（PEG）を含め栄養管理、褥創治療、癌化学療法、緩和医療等にも多職種でチーム医療を行い、地域のニーズに応えられるよう努力した。例えば、緩和回診対象患者は69人（前年度30人）と倍増した。

入院患者疾患別内訳は表に示すとおりである。当然のことではあるが、脳神経疾患や整形外科疾患のように常勤医師の退職や就職により前年度に比し変化が見られる。安定して医療の提供が継続できるような体制作りが望まれる。

＜入院患者疾患別内訳＞

	2006	2007
脳神経系疾患	251	223
消化器系疾患	272	273
泌尿器系疾患	187	133
循環器系疾患	163	160
外科系疾患	257	362
内科系疾患	100	112
呼吸器系疾患	235	184
整形外科	204	252
その他	7	13
合計	1,710	1,712